

一 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

横に書こうと縦にしようか。文章が変わりがあるものか。そういうノンキなことを考える人が多いのである。日本語は横書きではおかしいという声をほとんど聞かない。だ、この方が楽だろう、とはなるまい。漢字は横の線が重要である。日月月自、木本末末禾、鳥鳥などを見ても、文字の区別は主として横の線で行われている。読むには視線の方向と直角に交わる線がもつと目に入りやすい。縦に読む文字では横線が主軸になっていなくてはならない。漢字はちゃんとその理にかなってできているのだ。これを横に並べて横から読めば、横線は目の走る方向と並行になってしまう、見にくくなるはずだ。ヨーロッパ語は横書き横読みときまっている。アルファベットは縦の線が主になっている。これまた合理的である。nとmとは縦線ひとつで区別される。Ⅲである。まったく同じ形をしているのに、向きが違う。読む視線と直角に交わるようになってくるのだ。偶然ではない。アルファベットを縦に並べてみるとどんなに読みにくくなるか。ヨーロッパの人はだれもそんな酔狂なことにはしようとはしない。ところどころでは大昔から立っていた漢字を無理に横にし、それで執務能率がよくなる。縦書きはどことなく古くさい、横書きの方が進歩的だという印象をもっている人もいるらしい。その根拠が何であるかはつきりさせておく必要がある。横書きの漢字は読みにくい。眼に悪い。視線と並行の字画を見落とさせないようには、眼の疲れの漢字は当たり前で、日本人の近眼はこれと関係があるのではあるまいか。同じ文章でも横組みの印刷で読むか、縦組みになったのを読むかで感じが違う。その差もわからぬようではお話しにならない。

〔 外山滋比古『ことばの四季』 〕

問 漢字とアルファベットの特徴をその違いがわかるように、八十字程度で説明しなさい。但し「日本語」・「ヨーロッパ語」・「書き読む」・「主軸」・「視線」の語を必ず用いること。尚、使う順番は問いません。

二、次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

みどりちゃんとは、同じピアノ教室に通っていて、その教室で春に発表会があった。市内の同じ系列のピアノ教室の生徒が集まって、地元の文化会館で行われた小さいものだったけど、私はAの定「練習をする」というセンスがまったくなく、いつまでたっても上達しなかった。私の弾く曲は、十分実力の範囲内の曲だったし、時間は十分すぎるほどであった。にもかかわらず、いつまでたっても(1)上達しない私に、先生はあきれかえりながら、最終手段として「①補習」という、思いもかけなかったとんでもない隠しBワザを提示してきたのだ。

火曜日のレッスン日以外に、(2)日曜日まで特別にレッスンするというのだ。もちろん、発表会までの期間限定だし、これは先生の好意であって無理に行かなくてもいいのだけれど、(3)先生が自分の時間をC割いてまで教えてくれるというのに、行かないわけにはいかなかった。お母さんは先生に、申し訳ない、恥ずかしい、感謝します、と深々と頭を下げた。

でも私は腹立たしかった。せつかくの休みにレッスンに行くなんて、まったくばかげている。本番になればどうにかなるし、今までの経験からすると、きつと私は三日くらい前から猛練習をして、なんとか弾けるようになるはずなのだ。それにこの補習は私のためじゃない。本番で先生が恥をかかないための補習レッスンとしか思えなかった。

私はしぶしぶとレッスンに行き、うんざりしながらみどりちゃんに、そんなことを告げた。みどりちゃんは、同情とも哀れみともつかない②変な表情をして、

「大変だね。」とひとことだけ言った。

しかし、それからしばらくたったある日、みどりちゃんは私に、

「うらやましいよ。」とポツリと言ったのだ。

「えっ何が。」
「ピアノ。レッスン日以外にも、③先生から教えてもらえるなんていいなあ。」

私は(4)＊を疑った。

「なんで？ なんでなんで。だって無理やりやらされてるんだよ。あまりにも下手だから、しようがないからやってるんだよ。先生だって本当はイヤイヤなんだよ。」

「ううん、ちがうよ。さえちゃんには上手になってもらいたいんだよ。期待してるの、先生は。発表会でうまく弾けるようになって。」

「ちがう。絶対にちがうよ。ねえ、みどりちゃん、ほんとにそんなんじゃないんだよ。」
「ううん、お母さんも言ってた。あんたも頼んで教えてもらいなさいって。」

そんなんじゃないのに。どうして。④私はこのとき本心に、すごい衝撃を受けた。

みどりちゃんは、みどりちゃんの実力より少し上のランクの曲を発表会で弾く。それは、みどりちゃんならできると先生がDカクシンしたからで、補習をしないのは、そんな余計なことをしなくても、みどりちゃんはきちんと家で練習してきて、E完璧に弾けるのがわ

かっているから。それなのに、なんでだろう。うらやましいなんて。人によってこんなに受けとめ方が違うなんて。

〈 椰月美智子『十二才』〉

問一 二重線部A～Eの漢字は読みを、カタカナは漢字を答えなさい。

問二 (1) (3) にあてはまる言葉をそれぞれ次から選び記号で答えなさい。

ア なんと イ とうとう ウ わざわざ エ ちっとも

問三 傍線部①「補習」について

(1) 補習の内容を文中の言葉を使って三十字以内で説明せよ。

(2) 私は補習の目的は何のためと考えていますか。文中より十五字以内で書き抜きなさい。

(3) みどりちゃんは補習のことをどのように思っていますか。文中より六字で書き抜きなさい。

問四 この話から私が「補習」に乗り気でないことがわかる部分を文中から二つさがし、それぞれ四字で書き抜きなさい。

問五 傍線部②「変な表情」とありますが、みどりちゃんの気持ちとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

アの毒 イ 不愉快 ウ 戸惑い エ 皮肉

問六 (*) に、驚きのあまり信じられないという意味になるように、体の一部を表す漢字一字を答えなさい。

問七 傍線部③「先生」について私とみどりちゃんでは考えが違います。次の文のうち私の考えならA、みどりちゃんの考えならBとして答えなさい。

先生は上手になってほしいという熱意で補習をしている。
先生のレッスンは貴重で是非とも受けたいと思っている。
先生は、全然上達しないので休みの日にイヤイヤ補習を行っている。
先生はできると信頼して発表会の曲を実力より上の曲を課している。

問八 傍線部④「私はこのとき本当に、すごい衝撃を受けた」とありますが、私はこのときどのようなことに気づいたのですか。それを説明した次の文の空欄に合うように十五字以内で答えなさい。

同じ出来事でも、(十五字以内) ということ。